

輸出事業計画

※申請者名：秋田ふるさと農業協同組合、品目：コメ

1. 輸出における現状と課題

「現状」

- ・輸出事業計画により、令和3年産米で150トから令和6年産米で757.02トと実績を積み上げ、令和7年産米は907.02トを計画している。

「課題」

【生産】

- ・主食用米の市場価格の上昇により、新市場開拓用米との販売価格差が拡大することによる生産者手取りの確保。

【販売】

- ・輸出先国における日本産米同士の厳しい価格競争。
- ・輸出先国での新規需要の掘り起こしによる販路拡大。

2. 輸出事業計画の取組内容

【生産】

・J Aでの種類別共同計算方式(主食用・加工用・輸出用をプール精算)を継続実施しながら、新市場開拓等促進事業を積極的に活用し、生産者手取り最大化に取り組む。

【販売】

- ・全農及び全農インターナショナルの現地拠点による需要者への直接提案も含めて、需要者との結びつきを強めるとともに、安定供給を実施する。
- ・販売先国での需要拡大を目指しつつ、マレーシア・タイ・ヨーロッパ諸国、世界最大の消費国である中国へも販路拡大を図っていく。

3. 輸出事業計画の実証と見直しを行うためのPDCA実施体制

全農本所および全農インターナショナルを窓口、海外マーケットの情報取得・産地への伝達、産地情報の伝達・商談等を行い輸出の拡大に取り組んでいる。

生産	流通	販売
J A 秋田ふるさと	全農（秋田県本部・本所）	J A 全農インターナショナル
<ul style="list-style-type: none"> ・生産計画策定 （需要に応じた生産の取組） ・営農推進 ・生産者からの集荷 	<ul style="list-style-type: none"> ・輸出事業者との情報交換 （輸出先国の概況把握） ・生産計画策定 （需要に応じた生産の取組） ・集出荷調整 	<ul style="list-style-type: none"> ・輸出先国の市場調査 ・現地消費者ニーズの把握 ・営業推進による需要の確保 ・商品製造 ・輸出業務 ・現地販売業務

情報のフィードバックを各段階で定期的実施

⇒生産計画の改善図り、現地ニーズに合わせた生産に取り組む。

4. 輸出目標額

	現状（令和2年度）	目標年（令和9年度）
輸出額（千円）	244	566,661
輸出货量（t）	1.62	1,700
輸出先国	アメリカ	香港・アメリカ・シンガポール・台湾・中国・ヨーロッパ諸国・中東諸国・マレーシア・タイ